平成３０年度　学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立輪島高等学校　定時制

重点目標		具体的取組		実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果、課題、改善策等）
1	学ぶことのよろこびの実感 〔主担当〕 学力向上G	①	ＩＣＴを利活用した授業の展開	ＩＣＴの利活用により、意欲的に学習に取り組んだ生徒が Ａ：８０％以上 Ｂ：６０％以上 Ｃ：５０％以上 Ｄ：５０％未満	**B** (62.3%)	成　果：ICT 活用の効果が感じられた度合いは、数値としては昨年度よりも僅かに良好な値となっている。 課　題：集計結果の数値からは、②の生徒の主体性を問うアンケートの結果との相関性の強さも窺われ、授業に積極的でない生徒の関心を引くまでに至っていないと観ることもできる。 改善策：より効果的な活用方法の研究を重ねていくとともに、指導技術の向上を図る。
		②	生徒の興味関心を高める授業の展開	授業に主体的に取り組んだ生徒が Ａ：７０％以上 Ｂ：６０％以上 Ｃ：５０％以上 Ｄ：５０％未満	**B** (61.1%)	成　果：生徒アンケートの結果は、昨年度の52.6%から 9 ポイント近く向上している。授業に積極的に取り組む生徒が一定程度増えたものと判断できる。 課　題：評価の向上は、教員の実感として、新入生の学習の姿勢が良好だったことが主たる要因と思われる。そうした雰囲気を他年次のクラスにも広めたい。 改善策：引き続き、生徒の興味・関心を高め学習意欲を引き出すような授業づくりに努める。そのためにも、生徒の情緒の安定が欠かせない。

学校関係者評価委員会の評価	①全ての教室でｗｉｆｉの設備が整っていると言うことであるが、生徒にとって便利で、より有効な活用に努めて欲しい。 ②携帯文化の時代の中で、映像から入っていくと興味関心が持ちやすいと思うが、一方で、全てをＩＣＴ中心で行うには問題もあると思う。生徒にとって学習効果のある授業改善を図るよう心がけて欲しい。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえて今後の改善策	①有効活用できた事例等を教師間で共有しながら、いっそう有効活用できるように努める。 段階を追って、生徒のパソコン技能の向上を図る。 ②生徒一人一人に目を向けながら、授業で成就感が得られるよう指導方法の改善に努める。

重点目標		具体的取組		実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果、課題、改善策等）
２	社会人基礎力の向上 〔主担当〕 キャリア教育G	①	社会人として求められる挨拶・言葉遣い指導	人前で挨拶や発表する場面を経験できた生徒が Ａ：８０％以上 Ｂ：６０％以上 Ｃ：４０％以上 Ｄ：４０％未満	B	成　果：学校行事や里山里海学習において、全員が一回挨拶や発表を経験する取り組みを進め、多くの生徒に経験を積ませることができた。 課　題：生徒個々人の度量に合った場面を設定していくことが難しかった。 改善策：今後もさまざまな場面を活用しながら、普段の生活においても、発表や挨拶ができるように、粘り強く指導を継続する。
		②	時間の自己管理意識を高める指導	全授業の出席率 80%以上の生徒が Ａ：７０％以上 Ｂ：５０％以上 Ｃ：３０％以上 Ｄ：３０％未満	D (22.2%)	成　果：常に学級担任が、本人や家庭と連絡を密に取った結果、前半は欠席が長期にわたる生徒は、少なかった。 課　題：後半、学校生活に慣れたためか、長期欠席する生徒が数名いた。 改善策：生活面の改善や将来を展望する意識を高めながら、欠席や遅刻をしないよう、強い意志で自己管理ができる生徒を育成する。
		③	いじめを許さない姿勢の確立	自己有用感が高まるような行事を Ａ：月１回のペースでできた Ｂ：２月に１回はできた Ｃ：年に数回できた Ｄ：できなかった	A	成　果：生徒の人格育成に役立つ学校行事や外部講師による調理実習等の里山里海学習を昨年度以上に実施することができた。 課　題：個々人の特性によって、積極的に活動できない行事もあった。 改善策：次年度の活動内容について、関心が持てるように再考する。さらに事前学習等で活動することの意義を理解させ、粘り強く指導を継続する。

学校関係者評価委員会の評価	①挨拶や発表等、自ら一歩前へ出る経験をさせることで、達成感を体験することは意味があると思う。 少しずつハードルを上げ、一人でも発表できるよう指導して欲しい。 ②さまざまな事情を抱えた生徒が多い中で、大変だと思うが根気よく支援して欲しい。 ③共同作業を通して、相手を思いやったり共感したりすることは生きていく上で大切である。継続して活動して欲しい。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえて今後の改善策	①各行事や授業等、さまざまな場面の中で活動できる機会を設けていく。 ②休みがちな生徒に対して、今後も生徒と連絡を密に取り、また、保護者と協力しながら、根気よく支援していく。 ③教員相互に協力しながら、より良い行事を工夫していく。

重点目標		具体的取組		実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果、課題、改善策等）
３	地域愛の育成 〔主担当〕 地域理解Ｇ	①	ふるさと学習への積極的な参加	ふるさとに関する体験学習に積極的に取り組むことができた生徒が Ａ：９０％以上 Ｂ：７０％以上 Ｃ：５０％以上 Ｄ：５０％未満	B （82.5%）	成　果：総合的な学習の時間などで里山里海保全活動、輪島塗教室、地元食材を用いた調理実習を実施した。現時点での累計出席率は 82.5%である。 課　題：生徒の参加率は昨年度（86%）と同程度であるが、参加姿勢には個人差があり、積極性に欠ける生徒も見られる。 改善策：保全活動の意義を理解させるための事前学習を充実させる。また、生徒の自主性や責任感を高める方策として、市のイベントへの出店を計画中である。
		②	協働的に活動する場面の設定	協働的な活動を取り入れた教材を開発できた教員が Ａ：５名以上 Ｂ：４名 Ｃ：３名 Ｄ：２名以下	A （全職員）	成果等：管理職を含む全ての職員で、ふるさと学習の企画、運営の責任者を年間 2 回程度分担して担当することとし、実習に用いる教材・食材等の準備や、外部機関との連絡調整などを行った。また、授業実施当日は、全ての職員が協力して準備・後片付け等の作業にあたった。

学校関係者評価委員会の評価	①ふるさとに対する理解を深め、地域愛を育む活動は意味があると思う。今後も継続して取り組んで欲しい。 地域のことをよく知る講師を招いて、地域に対する興味関心を高めさせるなどしてみてはどうか。 ②多くの教員が関わることで、いろいろなアイデアが出てくると思う。有意義な活動ができるよう期待したい。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえて今後の改善策	①今以上に生徒が前向きに取り組めるよう、事前指導を丁寧に行い活動意義を理解させながら、継続する。 ②今後も創意工夫を凝らしながら、できるだけ多くの教員が企画を考え実行できるように努める。さらに、今年度実施した活動を踏まえ、より深化した活動内容となるように改善を図る。